

平成 28 年度
公共施設に関するアンケート
調査結果報告書（速報）

平成 28 年(2016 年)10 月
秦野市

公共施設に関するアンケート調査の結果（速報）について

公共施設白書の改訂に合わせ、隔年で実施している「公共施設に関するアンケート調査」について、今年度における調査結果がまとまりましたので、次のとおり報告するものです。なお、今回は、インターネットを利用した調査会社によるアンケート（以下「Web 調査」といいます。）に加え、無作為抽出による郵送のアンケート（以下「郵送調査」といいます。）も実施しました。

1 調査の概要

(1) 調査方法等

調査方法	インターネット上の会員用フォームへの入力による回収				郵送による調査票の送付及び回収				
調査期間	平成 28 年 7 月 5 日～13 日				平成 28 年 8 月 2 日～26 日				
調査対象者	調査会社のモニター会員のうち、市内に居住すると登録がある 20 歳以上の男女				平成 28 年 7 月 1 日時点で市内に住所を有する 18 歳以上の男女 700 名（住民基本台帳から無作為抽出）				
回答者数		男	女	計		男	女	無回答	計
	20 代	13	43	56	20 代以下	13	11		24
	30 代	40	42	82	30 代	21	22		43
	40 代	42	46	88	40 代	21	34	1	56
	50 代以上	89	36	125	50 代以上	107	117		224
	—	—	—	—	無回答	—	—	1	1
	計	184	167	351	計	162	184	2	348

(2) 結果の概要

公共施設更新問題及び公共施設の再配置に関する認知度並びに本市の取組みに対する理解度が高まりつつあります。また、今年度特別に設けた使用料の見直しに対する意識に関しては、平成 26 年 11 月本市が「公共施設の利用者負担の適正化に関する方針」で見直しの根拠として示した、「納税者間の公平性確保」及び「世代間負担の公平性確保」という視点に対する支持が高い結果となりました。

なお、Web 調査の結果と、郵送調査の結果との間に大きな違いは見られませんが、一部の回答肢には、標本誤差¹（信頼水準 95%）²を超える差が見られ

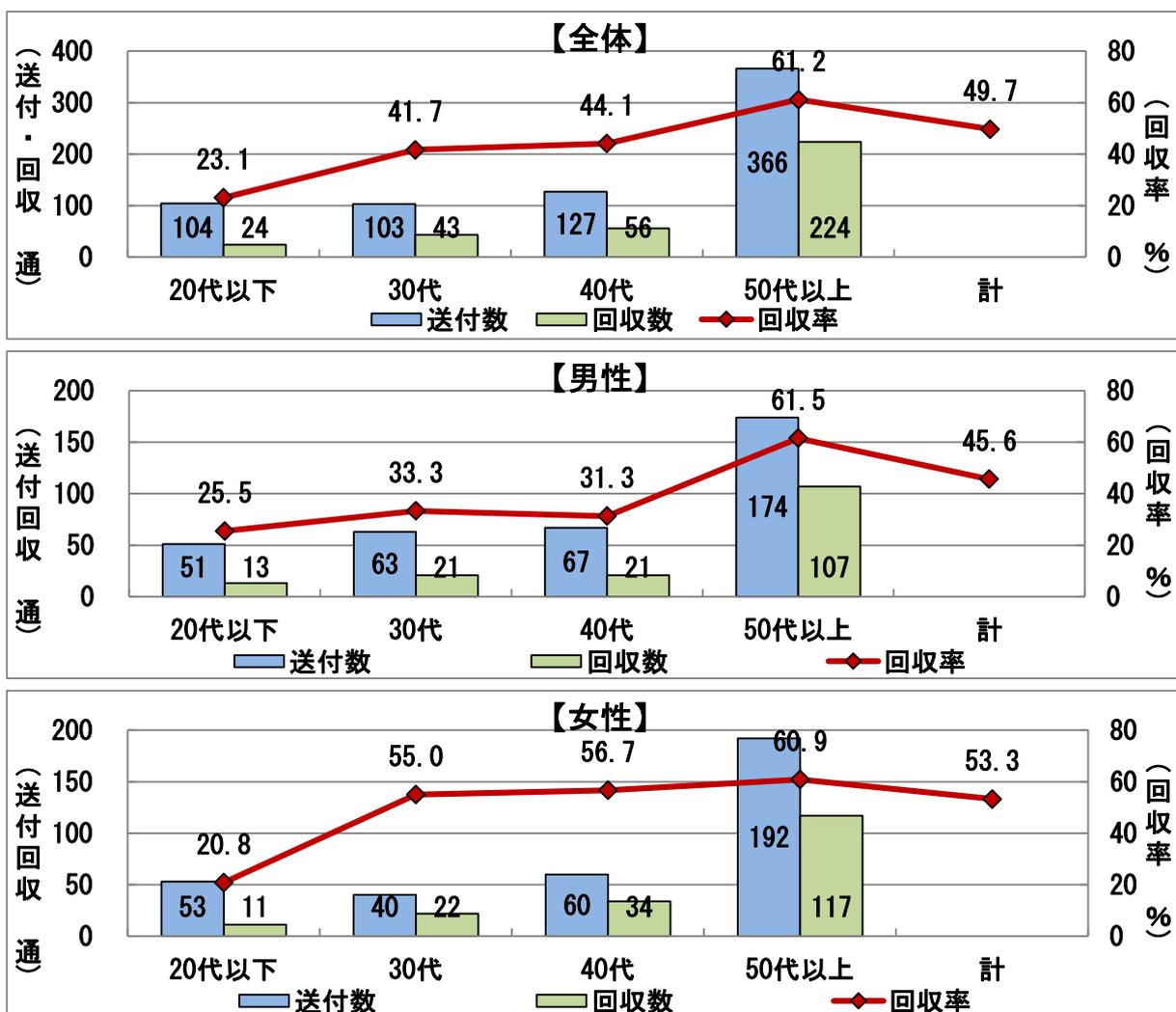
¹ 母集団から一部の標本を抽出する標本調査において、標本から得られた値と、母集団における値との間に生じる誤差で、確率論に基づき一定の式で計算する。

² 100 回同じ調査を行った場合、95 回が回答割合に標本誤差を加減した割合の中に納まる結果になるという信頼度である。例えば、回答率 50%で信頼水準 95%である標本誤差が 5%の場合、その回答は 100 回中 95 回 45～55%の間に収まることになる。

ました。このことについては、後述のとおり郵送調査における回収率に表れた年代別及び性別の特性が影響しているものと考えられますが、標本誤差を超える誤差があったものについては、各設問と回答の結果にクロス集計等の結果を示して、原因等を説明しています。

(3) 郵送調査における回収率の性別、年代別の内訳

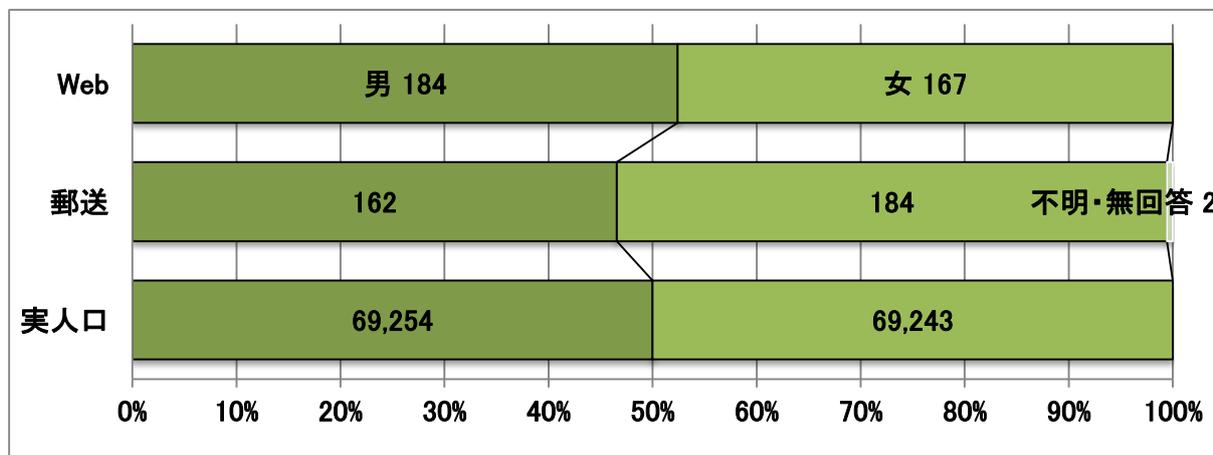
全体の回収率は、49.7%となりました。年代別では、年代が上がるほど高くなり、性別では、女性が男性よりも約 7.7 ポイント高くなりました。年代及び性別での分類では、50 代以上の男性が 61.5%で最も高く、20 代以下の女性が 20.8%で最も低くなりました。



2 回答者の属性

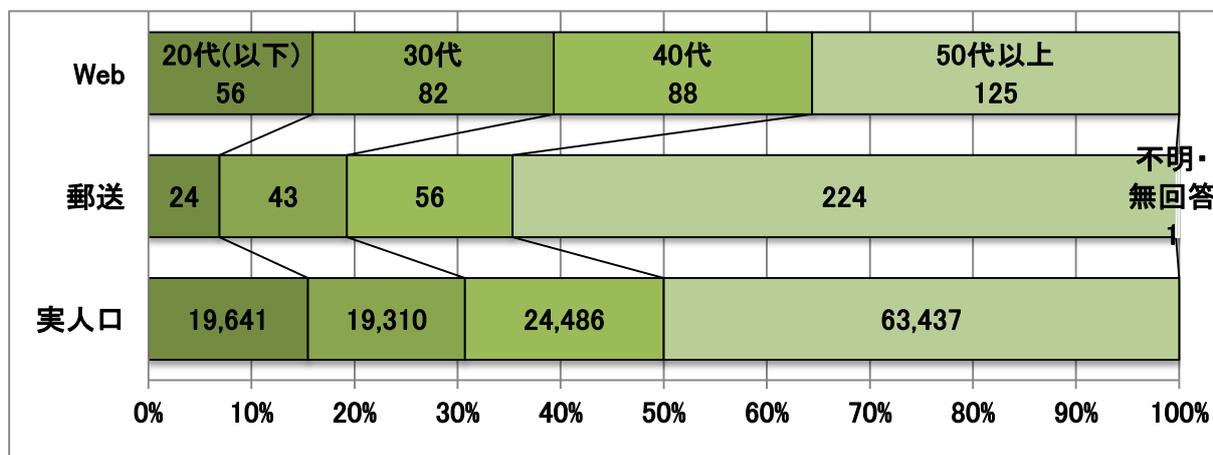
(1) 性別

平成 28 年 7 月末日現在の住民基本台帳による 18 歳以上の人口（以下「実人口」といいます。）の割合と比較して、Web 調査では男性の割合がやや多く、郵送調査では、女性の割合がやや高くなっています。



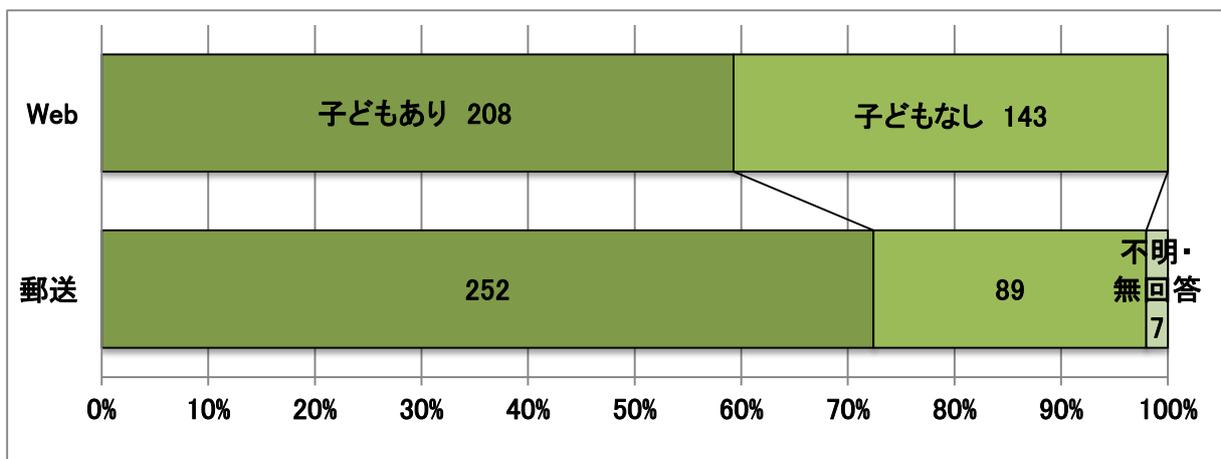
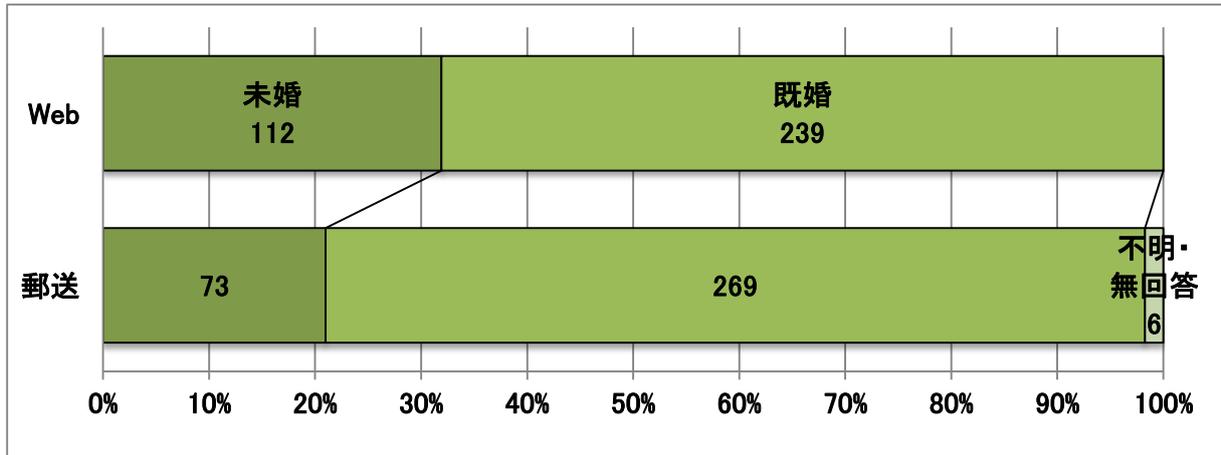
(2) 年代

実人口の割合と比較して、Web 調査では、30 代、40 代の割合が高く、50 代以上が少なくなっています。これに対して郵送調査では、50 代以上の割合が高く、その他の年代の割合が少なくなっています。



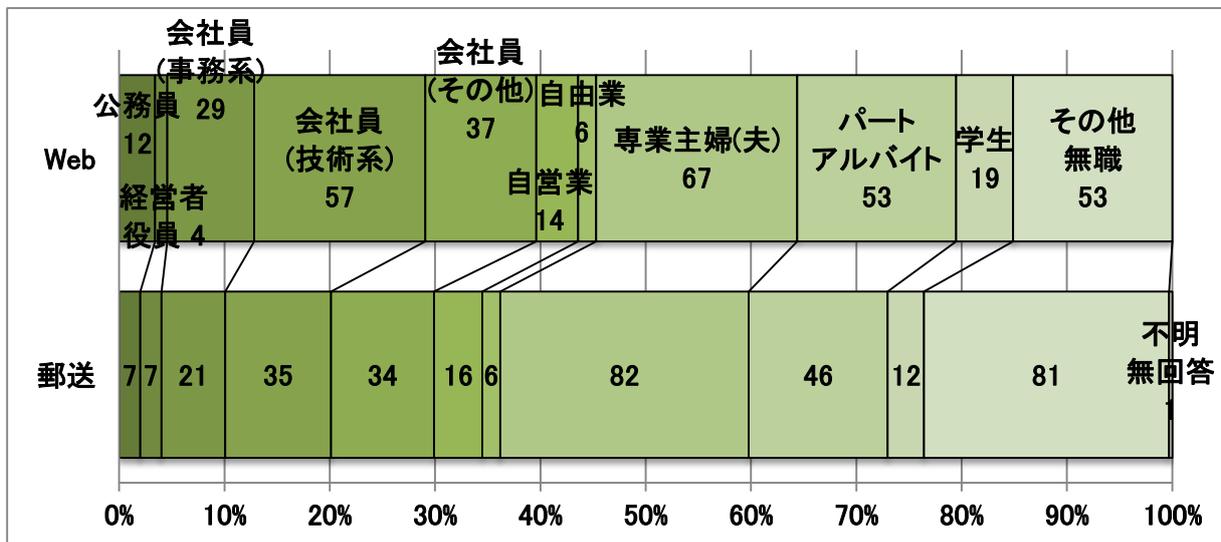
(3) 未既婚、子どもの有無

郵送調査では、Web 調査よりも既婚者の割合、子どもありの割合が高くなっています。なお、ここでいう「子ども」は、青少年だけを指すものではなく、成人している場合も含んでいます。



(4) 職業

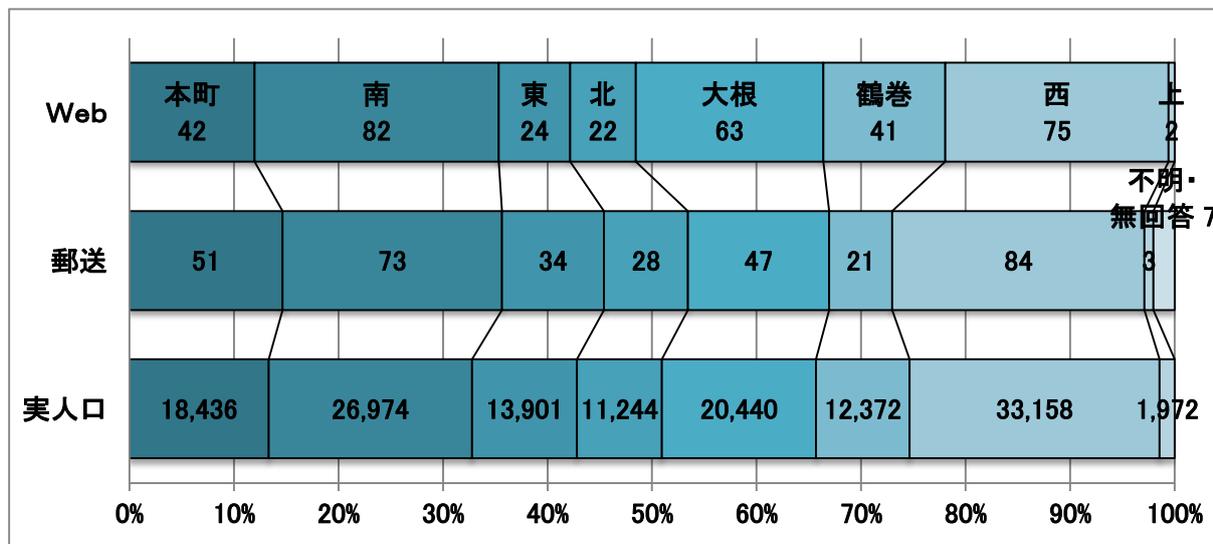
Web 調査では、郵送調査よりも就労者の割合が高くなっています。また、特に「その他・無職」と答えた者の割合の差が顕著です。ちなみに、平成 22 年度国勢調査の結果では、本市の 15 歳以上の人口に占める就業者の割合は、51.6%となっています。



3 設問及び回答の結果

問1 あなたが居住している地区を教えてください。

Web 調査では、南、大根、鶴巻地区に居住する者の割合が、実人口の割合よりも高く、本町、東、北、西、上地区に居住する者の割合が低くなっています。また、郵送調査では、本町、南、西地区に居住する者の割合が、実人口の割合よりも高く、東、北、大根、鶴巻、上地区に居住する者の割合が低くなっています。

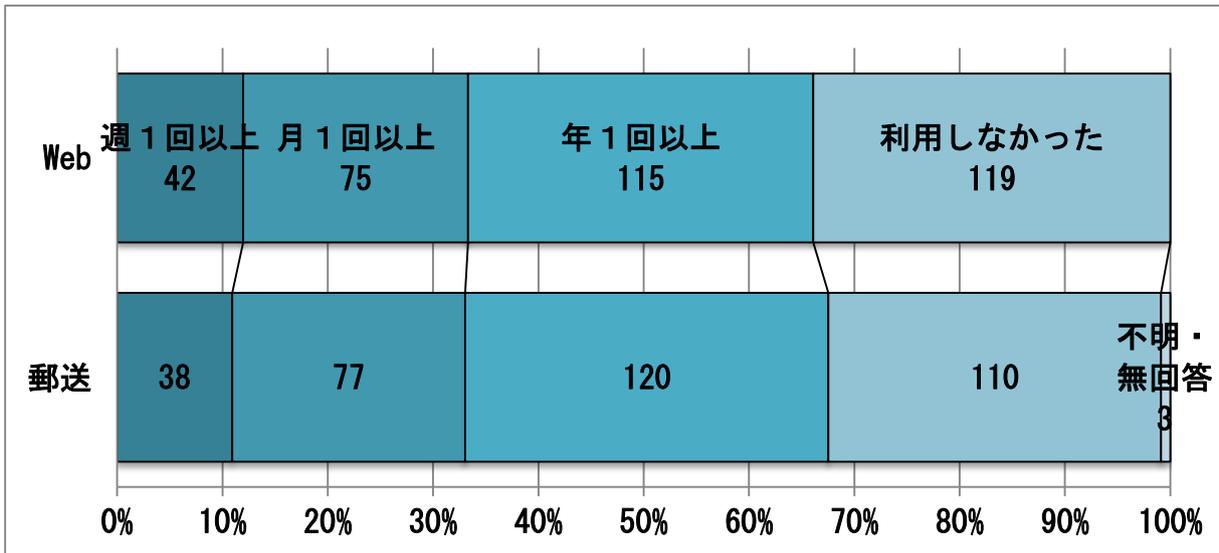


回答肢	実割合	Web n= 351	郵送 n= 348
① 本町	13.3%	(8.5%) ~ 12.0% ~ (15.5%)	(10.9%) ~ 14.7% ~ (18.5%)
② 南	19.5%	(18.9%) ~ 23.4% ~ (27.9%)	(16.6%) ~ 21.0% ~ (25.4%)
③ 東	10.0%	(4.1%) ~ 6.8% ~ (9.5%)	(6.6%) ~ 9.8% ~ (13.0%)
④ 北	8.1%	(3.7%) ~ 6.3% ~ (8.9%)	(5.1%) ~ 8.0% ~ (10.9%)
⑤ 大根	14.8%	(13.8%) ~ 17.9% ~ (22.0%)	(9.8%) ~ 13.5% ~ (17.2%)
⑥ 鶴巻	8.9%	(8.3%) ~ 11.7% ~ (15.1%)	(3.5%) ~ 6.0% ~ (8.5%)
⑦ 西	23.9%	(17.0%) ~ 21.4% ~ (25.8%)	(19.5%) ~ 24.1% ~ (28.7%)
⑧ 上	1.4%	(0.0%) ~ 0.6% ~ (1.4%)	(0.0%) ~ 0.9% ~ (1.9%)
不明・無回答	—	—	2.0%

()内は、信頼水準95%である標本誤差を加減した回答率

問2 あなたは、過去1年間に総合体育館、文化会館、図書館、公民館、児童館のように不特定の市民が利用することができる秦野市立の公共施設を利用しましたか。(公園のように職員が常駐していない施設は除きます。)

「週1回以上利用」及び「月1回以上利用」を「定期的な利用者」とすると、どちらの調査でもその割合は、3分の1程度となっています。

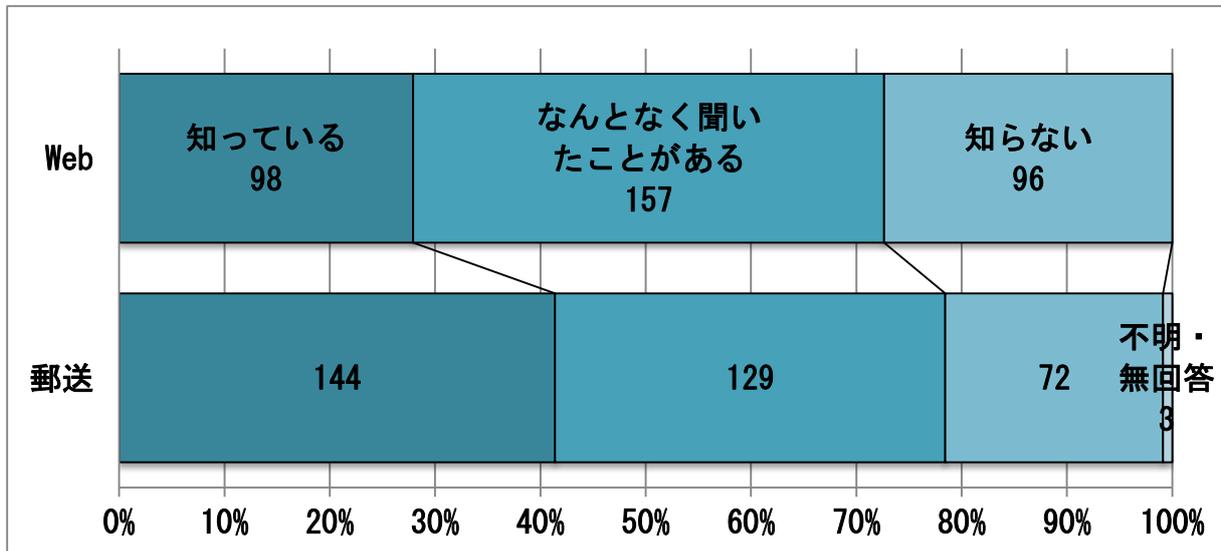


回答肢	Web n= 351	郵送 n= 348
① 週に1回以上利用した。	(8.5%) ~ 12.0% ~ (15.5%)	(7.6%) ~ 10.9% ~ (14.2%)
② 月に1回以上利用した。	(17.0%) ~ 21.4% ~ (25.8%)	(17.7%) ~ 22.1% ~ (26.5%)
③ 年に1回以上利用した。	(27.8%) ~ 32.8% ~ (37.8%)	(29.4%) ~ 34.5% ~ (39.6%)
④ 利用しなかった。	(28.8%) ~ 33.9% ~ (39.0%)	(26.6%) ~ 31.6% ~ (36.6%)
不明・無回答	—	0.9%

()内は、信頼水準95%である標本誤差を加減した回答率

問3 日本では、昭和40年代から50年代にかけて、高度経済成長や都市化の進展に伴い、道路や橋を含めた公共施設を一斉に整備しました。現在これらの公共施設は、一斉に老朽化しつつあり、また、近い将来、一斉に作り直さなければいけない時期を迎えますが、住民の高齢化と人口減少が進む中で財政状況は悪化し、すべての公共施設を維持することが難しくなります。このことは、「公共施設の更新問題（老朽化問題）」と言われていますが、あなたは、このことをご存知でしたか。

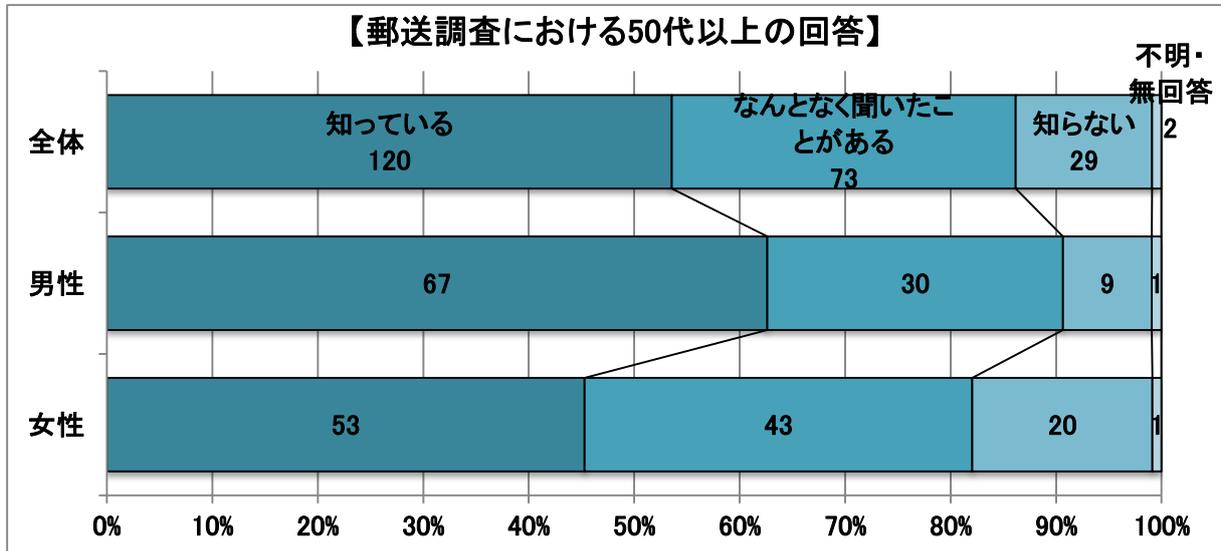
「知っている。」と「なんとなく聞いたことがある。」と回答した者の割合は、合計でどちらも7割以上となっていますが、「知っている。」と回答した者の割合には、標本誤差を超える差が現れました。



回答肢	Web n= 351	郵送 n= 348
① 知っている。	(23.1%) ~ 27.9% ~ (32.7%)	(36.1%) ~ 41.4% ~ (46.7%)
② なんとなく聞いたことがある。	(39.4%) ~ 44.7% ~ (50.0%)	(31.9%) ~ 37.1% ~ (42.3%)
③ 知らない。	(22.6%) ~ 27.4% ~ (32.2%)	(16.4%) ~ 20.7% ~ (25.0%)
不明・無回答	—	0.9%

()内は、信頼水準95%である標本誤差を加減した回答率

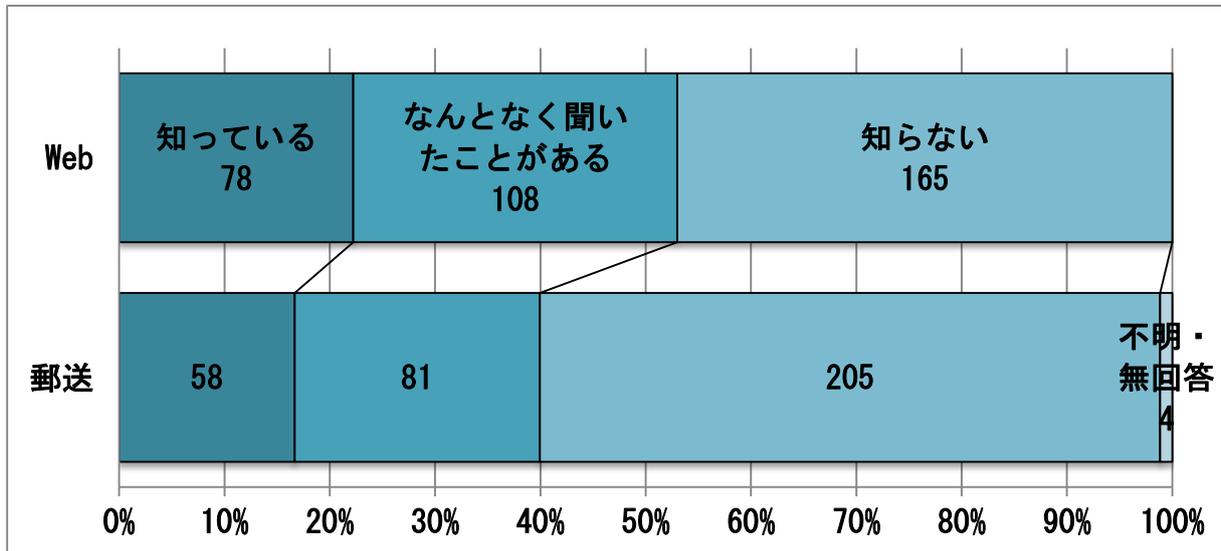
郵送調査では、50代以上の回答者のうち、半数以上の者が「知っている。」と答えています。特に男性は、6割以上の者が「知っている。」と答えています。50代以上の回答者の割合は、実年齢の割合を超えていることから、この回答結果が全体の割合を押し上げていることがわかります。



問4 現在秦野市は、この「公共施設の更新問題（老朽化問題）」に対応するため、「公共施設の再配置」を進めています。あなたは、このことをご存知でしたか。

「知っている。」と「なんとなく聞いたことがある。」と回答した者の割合は、Web 調査では5割を超えました。郵送調査では、4割程度となっていることに加え、「知らない。」と答えた者の割合には、わずかですが標本誤差を超える差が現れました。

同様の設問は、平成24年度及び平成26年度に行ったWeb調査にも設けています。平成24年度又は平成26年度において行われたWeb調査と今回のWeb調査に、ともに答えた者は189名(回答者の53.8%)、そのうち3回連続で回答した者が82名(23.4%)いることから、調査への参加により認知されたものと推測することができます。

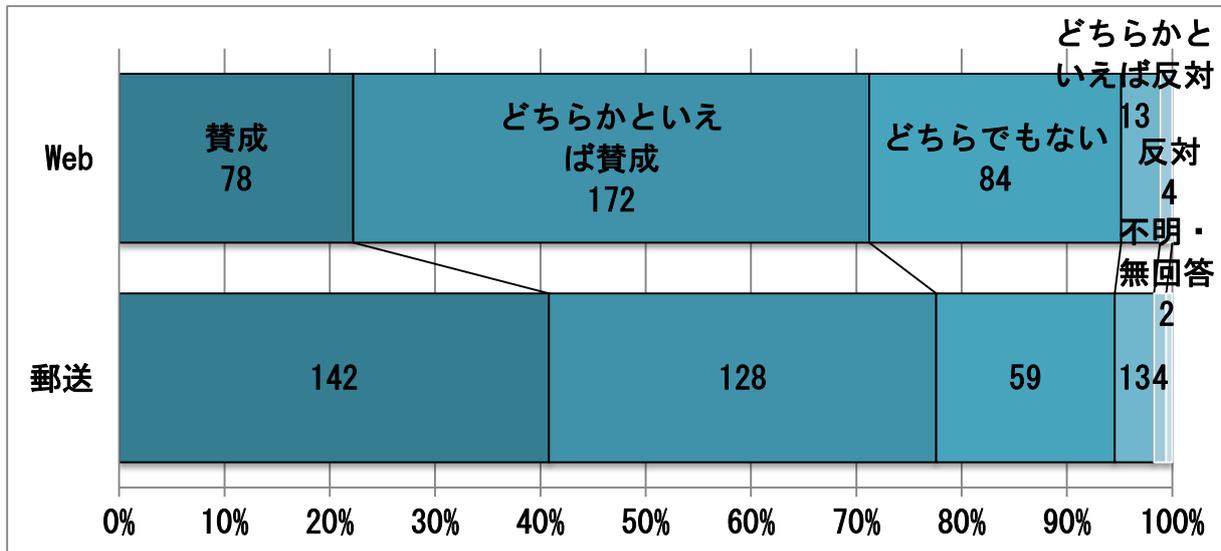


回答肢	Web n= 351	郵送 n= 348
① 知っている。	(17.8%) ~ 22.2% ~ (26.6%)	(12.7%) ~ 16.7% ~ (20.7%)
② なんとなく聞いたことがある。	(25.9%) ~ 30.8% ~ (35.7%)	(18.8%) ~ 23.3% ~ (27.8%)
③ 知らない。	(41.7%) ~ 47.0% ~ (52.3%)	(53.6%) ~ 58.9% ~ (64.2%)
不明・無回答	—	1.1%

()内は、信頼水準95%である標本誤差を加減した回答率

問5 秦野市が進めている「公共施設の再配置」は、できるだけ施設の機能を維持する方法を考えながら、40年間で31%の公共施設（床面積）を減らすことにより、人口減少と市民の高齢化が進む中でも、義務教育をはじめとする必要性の高い公共施設サービスを、将来にわたり良好な状態で維持していこうとするものです。このことに対するあなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。

「賛成である。」と「どちらかといえば賛成である。」と回答したものを合わせると、Web調査では、7割を超え、郵送調査でも8割近くに達しています。「賛成である。」と答えた者の割合、「どちらかといえば賛成である。」と答えた者の割合には、ともに標本誤差を超える差が現れていますが、郵送調査に回答した者のほうがより積極的な賛成をしています。

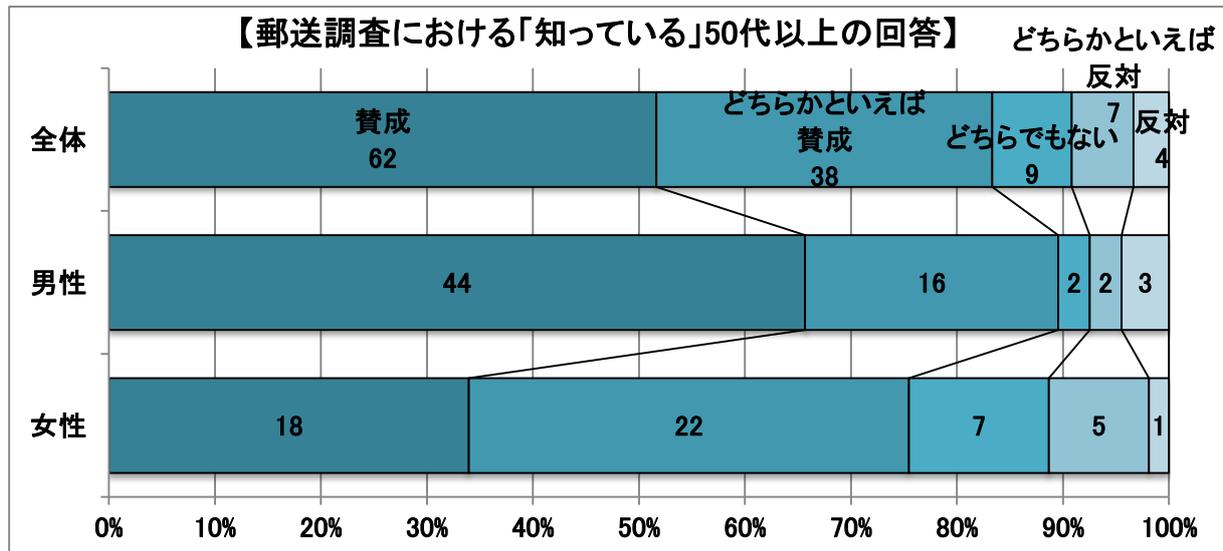


回答肢	Web n= 351	郵送 n= 348
① 賛成である。	(17.8%) ~ 22.2% ~ (26.6%)	(35.5%) ~ 40.8% ~ (46.1%)
② どちらかといえば賛成である。	(43.7%) ~ 49.0% ~ (54.3%)	(31.6%) ~ 36.8% ~ (42.0%)
③ どちらでもない。	(19.3%) ~ 23.9% ~ (28.5%)	(13.0%) ~ 17.0% ~ (21.0%)
④ どちらかといえば反対である。	(1.7%) ~ 3.7% ~ (5.7%)	(1.7%) ~ 3.7% ~ (5.7%)
⑤ 反対である。	(0.0%) ~ 1.1% ~ (2.2%)	(0.0%) ~ 1.1% ~ (2.2%)
不明・無回答	—	0.6%

()内は、信頼水準95%である標本誤差を加減した回答率

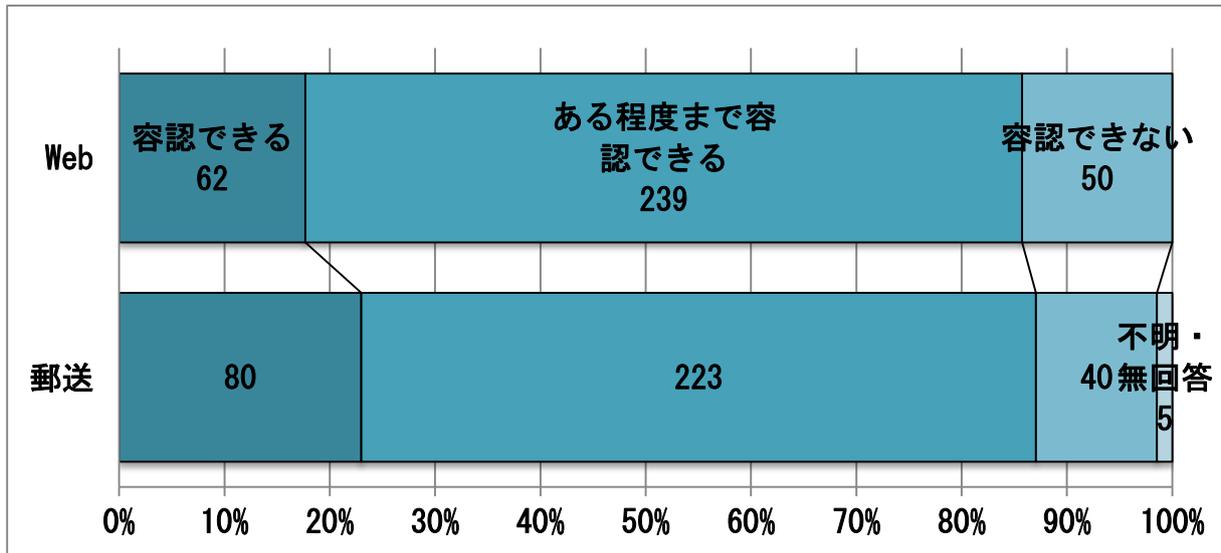
公共施設更新問題を「知っている」と回答した者は、公共施設の再配置の取組みに積極的に賛成する傾向が高いことは、過去の Web 調査結果にも表れていましたが、今回の郵送調査においても同様の傾向がありました。

したがって、積極的に賛成する者の割合に大きな差が生まれたことは、実年齢の割合以上の割合を占めた 50 代以上に、公共施設の更新問題を「知っている。」と答えた者の割合が高かったためであることがわかります。



問6 「公共施設の再配置」を進めると、施設の統合や廃止により、今まで利用できた施設が利用できなくなったり、使用料が値上がりする場合があります。このことに対するあなたの考えに最も近いものを選んでください。

「容認できる。」と「ある程度まで容認できる。」と回答した者の割合は、どちらの調査でも8割を超える結果となりました。



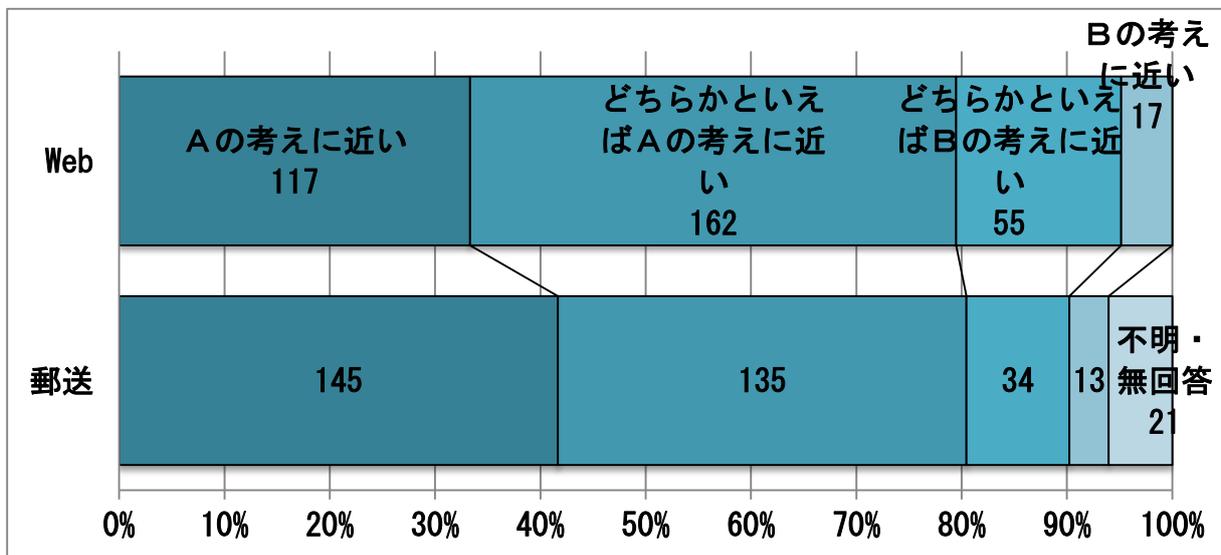
回答肢	Web n= 351	郵送 n= 348
① 容認できる。	(13.6%) ~ 17.7% ~ (21.8%)	(18.5%) ~ 23.0% ~ (27.5%)
② ある程度まで容認できる。	(63.1%) ~ 68.1% ~ (73.1%)	(59.0%) ~ 64.1% ~ (69.2%)
③ 容認できない。	(10.5%) ~ 14.2% ~ (17.9%)	(8.1%) ~ 11.5% ~ (14.9%)
不明・無回答	—	1.4%

()内は、信頼水準95%である標本誤差を加減した回答率

問7 秦野市の公共施設では、有料の施設であっても、全体の管理運営費（コスト）に対する利用者の負担割合は 15%程度であり、残りの 85%は税金でまかなわれています。公共施設の利用者負担については、さまざまな考え方があります。次の2つの考えのうち、あなたの考えに近いものを一つ選んでください。

A	公共施設は使う人と使わない人が居るのだから、税金だけで維持するのではなく、使う人が施設のコストに見合った負担をすべきである。
B	公共施設に係るコストは、すべて税金で維持すべきである。

「Aの考え方に近い。」と「どちらかといえばAの考え方に近い。」と答えた者の割合を合わせると、どちらの調査においても8割前後となりました。



回答肢	Web n= 351	郵送 n= 348
① Aの考えに近い。	(28.3%) ~ 33.3% ~ (38.3%)	(36.4%) ~ 41.7% ~ (47.0%)
② どちらかといえばAの考えに近い。	(40.9%) ~ 46.2% ~ (51.5%)	(33.6%) ~ 38.8% ~ (44.0%)
③ どちらかといえばBの考えに近い。	(11.8%) ~ 15.7% ~ (19.6%)	(6.6%) ~ 9.8% ~ (13.0%)
④ Bの考えに近い。	(2.5%) ~ 4.8% ~ (7.1%)	(1.7%) ~ 3.7% ~ (5.7%)
不明・無回答	—	6.0%

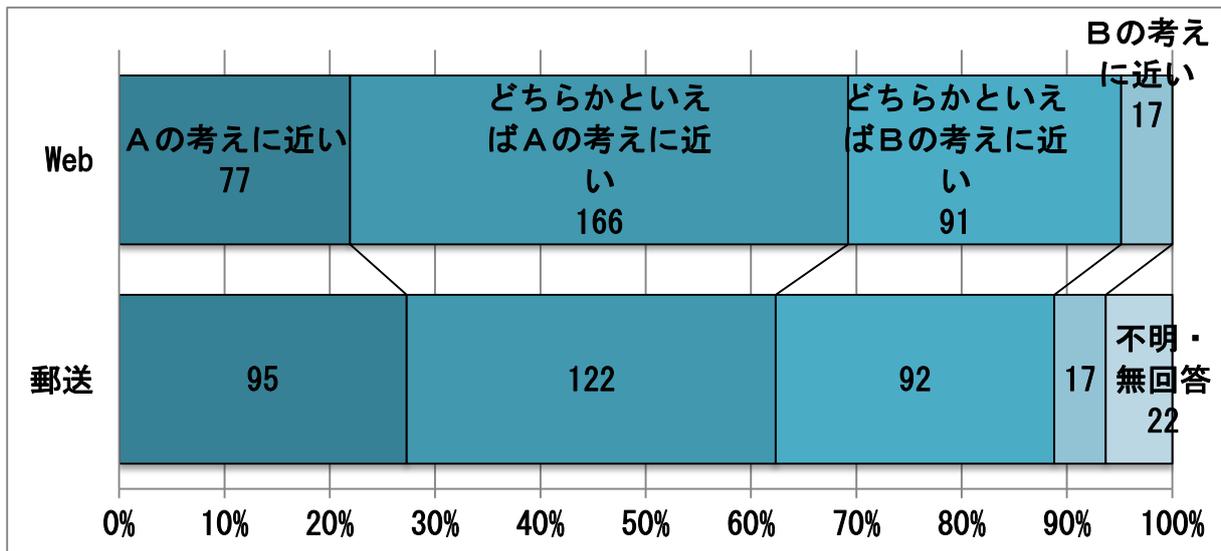
()内は、信頼水準95%である標本誤差を加減した回答率

問8 現在の秦野市の行政サービスに必要な財源を確保するためには、「臨時財政対策債」という「借金」をしており、公共施設の維持に必要な財源の一部もこの「借金」でまかなわれています。次の2つの考えのうち、あなたの考えに近いもの一つを選んでください。

A	現在の公共施設サービスに係るコストは先送りしないで、できるだけ現在の市民の負担とすべきである。
B	現在の公共施設サービスに係るコストであっても、一部を将来の市民の負担としても仕方がない。

「Aの考え方に近い。」と「どちらかといえばAの考え方に近い。」と答えた者の割合は、どちらの調査でも6割を超えました。

ただし、「どちらかといえばAの考え方に近い。」と答えた者の割合には、標本誤差を超える差が現れました。

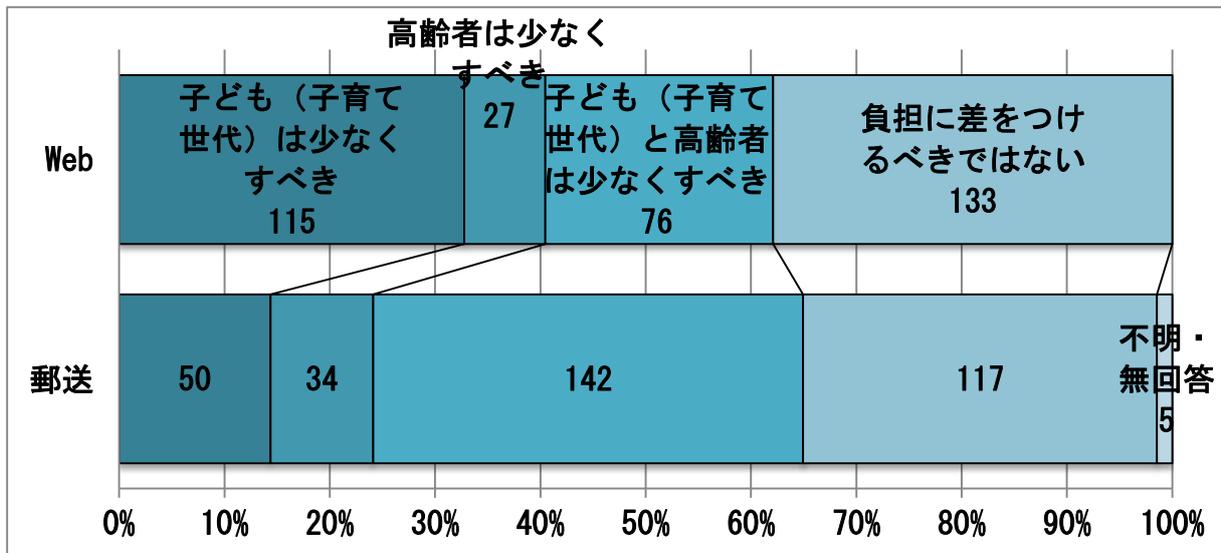


回答肢	Web n= 351	郵送 n= 348
① Aの考えに近い。	(17.5%) ~ 21.9% ~ (26.3%)	(22.5%) ~ 27.3% ~ (32.1%)
② どちらかといえばAの考えに近い。	(42.0%) ~ 47.3% ~ (52.6%)	(30.0%) ~ 35.1% ~ (40.2%)
③ どちらかといえばBの考えに近い。	(21.2%) ~ 25.9% ~ (30.6%)	(21.7%) ~ 26.4% ~ (31.1%)
④ Bの考えに近い。	(2.5%) ~ 4.8% ~ (7.1%)	(2.6%) ~ 4.9% ~ (7.2%)
不明・無回答	—	6.3%

()内は、信頼水準95%である標本誤差を加減した回答率

問9 公共施設は、様々な世代の方に利用されていますが、今後、世代による使用料の負担に差をつけることについて、あなたの考えに近いものを一つ選んでください。

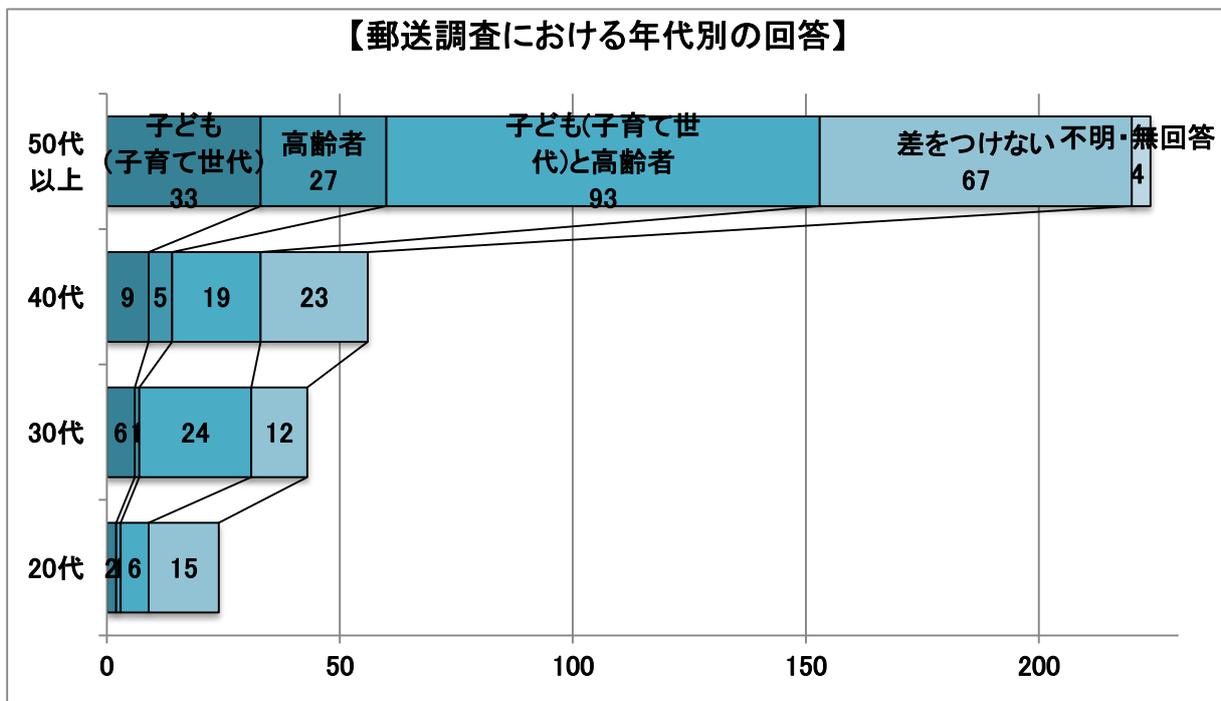
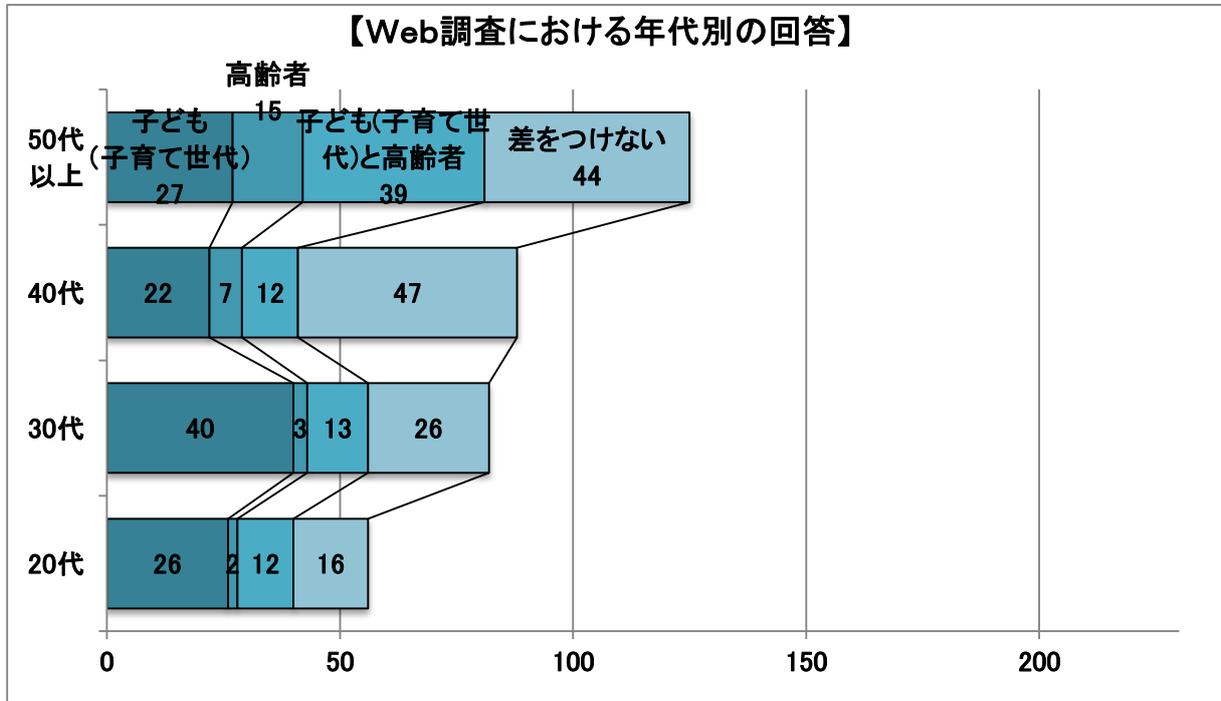
どちらの調査でも、何らかの形で負担に差をつけるべきとする回答が6割を超えています。また、「子ども(子育て世代)の負担は少なくすべきである。」と、「子ども(子育て世代)と高齢者の負担は少なくすべきである。」とした者の割合には、標本誤差を超える差が現れました。



回答肢	Web n= 351	郵送 n= 348
① どちらかといえば、子ども(子育て世代)の負担は少なくすべきである。	(27.8%) ~ 32.8% ~ (37.8%)	(10.6%) ~ 14.4% ~ (18.2%)
② どちらかといえば、高齢者の負担は少なくすべきである。	(4.9%) ~ 7.7% ~ (10.5%)	(6.6%) ~ 9.8% ~ (13.0%)
③ どちらかといえば、子ども(子育て世代)と高齢者の負担は少なくすべきである。	(17.3%) ~ 21.7% ~ (26.1%)	(35.5%) ~ 40.8% ~ (46.1%)
④ どちらかといえば、世代による負担に差をつけるべきではない。	(32.7%) ~ 37.9% ~ (43.1%)	(28.5%) ~ 33.6% ~ (38.7%)
不明・無回答	—	1.4%

()内は、信頼水準95%である標本誤差を加減した回答率

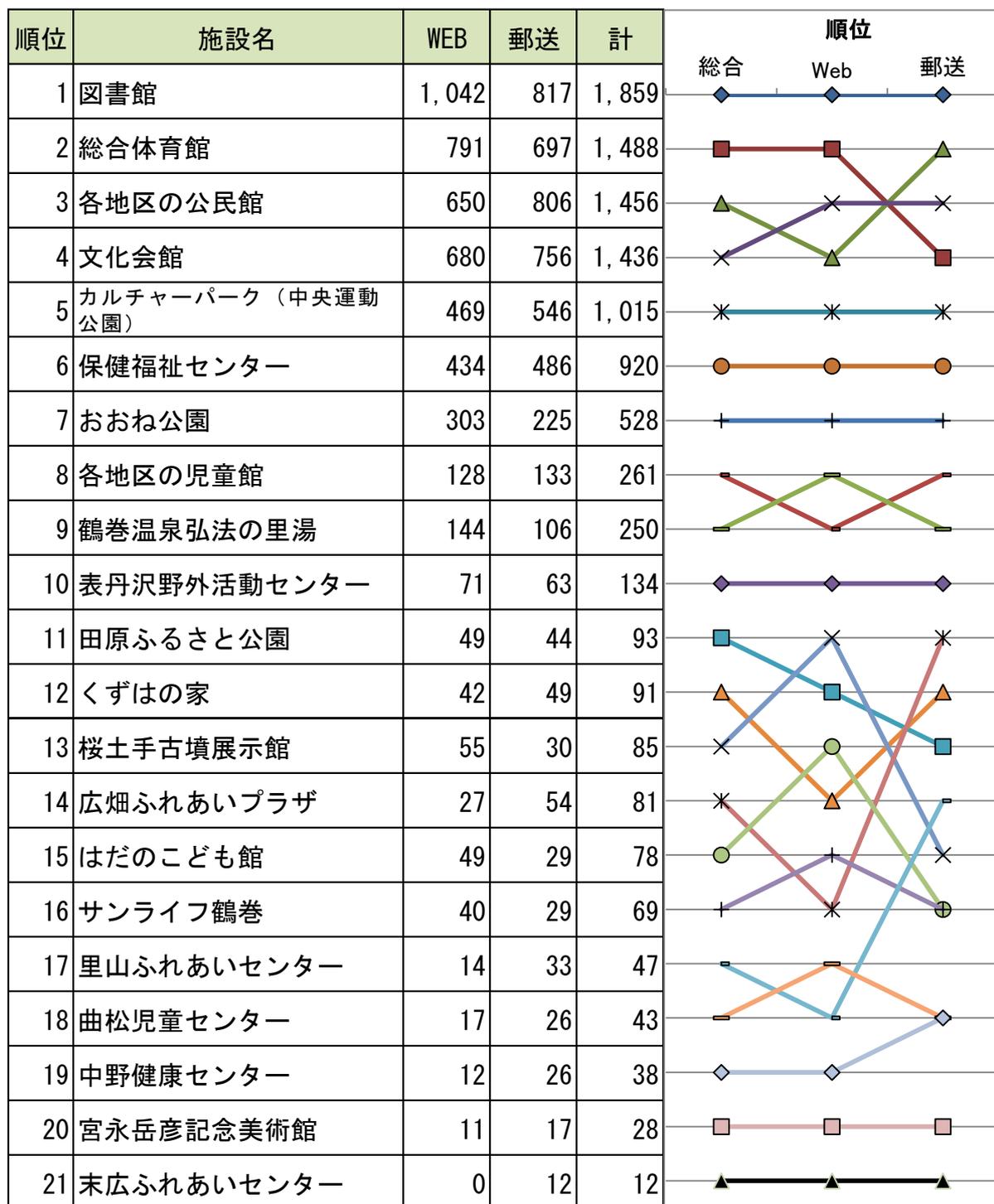
Web 調査、郵送調査ともに、「子ども(子育て世代)と高齢者の負担は少なくすべき」と答えた者の数は、50代以上が最も多くなります。これに対して、「子ども(子育て世代)の負担は少なくすべき」と答えた者の数は、郵送では50代以上が最も多くなりましたが、Web 調査では30代が最も多くなっています。回答者を構成する年代の差が影響を与えていることがわかります。



問 10 不特定の市民が利用できる公共施設のうち、あなたが将来にわたり、優先的に維持すべきと考える公共施設を5つ選び、優先順位を付けてください。

優先順位を得点化した場合、上位の施設に特筆すべき差は見られませんでした。なお、下位の施設については、得点差は小さく、回答のわずかな差で順位が変動することとなり、調査方法による差異を認めることは困難です。

なお、両調査の得点を合計した得点から総合順位を現しました。



(上段：Web 下段：郵送)

施設名	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	得点	順位
各地区の公民館	69	24	32	32	49	650	4
	99	36	27	24	38	806	2
総合体育館	51	66	46	54	26	791	2
	27	63	56	53	36	697	4
図書館	96	74	66	24	20	1042	1
	51	68	59	45	23	817	1
保健福祉センター	30	31	23	29	33	434	6
	34	32	32	33	26	486	6
文化会館	38	53	45	56	31	680	3
	48	52	58	46	42	756	3
おおね公園	18	21	27	15	18	303	7
	11	16	18	18	16	225	7
カルチャーパーク (中央運動公園)	20	32	39	42	40	469	5
	43	32	29	40	36	544	5
各地区の児童館	2	11	9	13	21	128	9
	4	9	11	13	18	133	8
鶴巻温泉弘法の里湯	4	9	12	20	12	144	8
	4	3	12	12	14	106	9
田原ふるさと公園	1	2	6	5	8	49	12
	2	3	3	2	9	44	13
広畑ふれあいプラザ	1	3	2	1	2	27	16
	4	3	2	5	6	54	11
サンライフ鶴巻	2	2	3	4	5	40	15
	1	1	2	4	6	29	16
末広ふれあいセンター	0	0	0	0	0	0	21
	0	1	1	1	3	12	21
曲松児童センター	1	1	1	2	1	17	17
	3	2	0	1	1	26	18
桜土手古墳展示館	2	2	4	7	11	55	11
	0	3	1	6	3	30	15
表丹沢野外活動センター	2	2	4	11	19	71	10
	3	1	5	9	11	63	10
宮永岳彦記念美術館	0	0	2	1	3	11	20
	1	0	1	4	1	17	20
はだのこども館	2	1	8	3	5	49	13
	0	2	2	3	9	29	16
中野健康センター	0	1	1	1	3	12	19
	0	2	3	3	3	26	18
くずはの家	1	0	4	9	7	42	14
	3	3	4	0	10	49	12
里山ふれあいセンター	0	1	2	1	2	14	18
	0	2	3	4	8	33	14
この中にはない	11	15	15	21	35	—	—
	2	1	2	0	3	—	—
不明・無回答	—	—	—	—	—	—	—
	8	13	17	22	26	—	—

※得点＝第1位回答数×5点+第2位回答数×4点…第5位回答数×1点

平成28年度
公共施設に関するアンケート調査結果報告書(速報)

平成28年(2016年)10月1日発行

編集・発行

秦野市政策部公共施設マネジメント課

〒257-8501 神奈川県秦野市桜町一丁目3番2号

Tel 0463-82-5122(直通)

FAX 0463-84-5235(共用)

E-Mail:koukyousisetu@city.hadano.kanagawa.jp